

東京家政大学は ピンクリボン運動を推進します

ピンクリボンは、アメリカから始まった乳がんの早期発見・早期診断・早期治療を促す啓発運動のシンボルマーク。乳がんは女性がかかるがんとして最も多いがんといわれており、ライフスタイルや食生活の変化により日本でも増加傾向にあります。

また、乳がんは”しこり”によって早期発見が可能ながんといわれています。

東京家政大学では、約7,000人の女性が学ぶ大学の使命として、女子大学としてはじめてピンクリボン運動をスタートさせました。平成21年、当時造形表現学科4年生の学生が、本学に通う学生をイメージしてデザインしたピンクリボンキャラクターが、東京家政大学ピンクリボン運動のシンボルマークです。

ねえ知ってる？
ピンクリボンのこと



© Tokyo-Kasei Hulip

飲料自動販売機売り上げの一部を寄付



啓蒙活動のピンクリボンカレンダー

東京家政大学オリジナルシンボルマークがラッピングされた、飲料自動販売機（学内の9号館：保健センター横、16号館：エレベータ前、学寮1号館：談話室）の売上の一部をピンクリボン運動の啓蒙活動および寄付にあてています。

緑苑祭でピンクリボン運動を展開



平成28年度

乳がん月間である10月には、学園祭「緑苑祭」にて、本学のオリジナルティあふれるピンクリボン運動を展開します。平成28年度は、学生有志がカフェを出展し、多くの来場者にピンクリボン運動をPRしました。

大学外での活動

東京家政大学と包括提携を結んでいる北区のピンクリボンキャンペーンへの協力や、学生が考案した乳がん予防レシピの配布などを行っています。



緑苑祭で出展したカフェのレシピ